

地質ニュース

第499号 1996年3月

口 絵

米国西部の浅熱水性金鉱床……………渡辺 寧
つくば隕石……………豊 遙秋・奥山(楠瀬)康子・
佐藤 芳治・富樫 茂子・木多 紀子・佐藤 岱生

巻頭エッセイ：地質標本館における標本研究と博物館としての役割
……………豊 遙秋・6

特集：放射性廃棄物処分と地質環境 I

特集にあたって……………小出 仁・7
地層処分における地質環境の安定性……………武田 精悦・8
放射性廃棄物の地層処分に対するシミュレーション研究と
ナチュラルアナログ研究の意義……………鹿園 直建・13
ウラン系列核種を用いる放射性核種移行のナチュラルアナログ研究
……………金井 豊・23

次世代リモートセンシングデータの利用—ASTER プロジェクト—

……………佐藤 功・32
米国西部の浅熱水性金鉱床の概要……………渡辺 寧・久保田喜裕・
林 歳彦・吉成 明夫・Andrew Thomas Comas・39
つくば隕石の回収と確認—地質調査所の役割……………豊 遙秋・
奥山(楠瀬)康子・佐藤 岱生・富樫 茂子・木多 紀子・53
つくば隕石による雲の目撃……………平野 英雄・55
ユニークな地質系博物館 (14) 大船渡市立博物館……………奥山(楠瀬)康子・59

地質標本館だより……………62
新刊紹介「地球の成立, その地質発達史」……………猪木 幸男・64
地学と切手……………P.Q.・65
編集後記……………66

表 紙

つくば隕石の顕微鏡写真：正月気分もさめやらぬ1996年1月7日の夕方4時20分ごろ、茨城県南部の筑波研究学園都市地区に、隕石が「隕石シャワー」として落下した。地質調査所では、直ちに広く隕石捜索の呼び掛けを行い、この結果2月中旬までに約800gの隕石を確認することができた。この隕石は、結晶度の高いブロックと細粒の基質から成る、角れき岩の組織を持つ球粒隕石である。表紙に示すのは、「つくば隕石7号」の薄片の顕微鏡写真であり、7号はブロックの部分のみから成る。写真で明るくみえるのは珪酸塩鉱物(主にかんらん石と斜方輝石)、黒く見える部分は鉄ニッケル合金である。鉄ニッケル合金が高い割合で含まれることは、つくば隕石の特徴の一つである。写真から明らかのように、ブロックは全体が再結晶しており、球粒の組織は辛うじてわかる程度にしか保存されていない。細粒の基質の部分は、ブロックよりも再結晶が進んでいない。基質とブロックの再結晶度が異なることも、この隕石のもう一つの特徴といえる。詳しくは、本文および口絵参照。
(写真と文：奥山(楠瀬)康子・木多紀子・大和田 朗)

通商産業省 地質調査所
工業技術院

〒305 茨城県つくば市東1-1-3

Tel. 0298-54-3520, Fax. 0298-54-3533

Geological Survey of Japan